

六八番

おほとも 大伴の
みつつ 三津の浜なる
わす 忘れ貝
いへ 家なる妹を
わす 忘れて思
へや

六九番

くさまくら 草枕
たひゆ 旅行く君と
し 知らませば
きし 岸の埴生に
にほはさ
ましを

おほきすめらみこと 太上天皇、
よしののみや 吉野宮に幸す時に、
たけちのむらじくろひと 高市連黒人
の作る歌

七〇番

やまと 大和には
な 鳴きてか来らむ
よなこどり 呼子鳥
きま 象の中山
よ 呼びそ
こ 越ゆなる

さきのすめらみこと 大行天皇、
なにはのみや 難波宮に幸す時の歌

七一番

やまとこ 大和恋ひ
ね いの寝らえぬに
こころ 心なく
すさきみ この州崎廻に
たつ 鶴
な 鳴くべしや